

効率的で持続可能な質の高い行政サービスを提供するために 白石市行政改革推進計画(集中改革プラン)を改訂しました

行政改革推進室 022-11561

現在の本市の財政は健全性を保っていますが、景気低迷による税収の落ち込みといった社会経済情勢の変化や、人件費や扶助費、市債(借入金)返済といった義務的経費の増大などに伴い、財政運営にとって大変厳しい状況が続いています。

市行政改革推進計画《集中改革プラン》改訂版 主な取り組み内容 I 継続的で開かれた行政運営の推進 ①民間委託と市民協働の積極的推進 ②業務効率化の推進 ③市民サービスの維持向上 II 安定的な財政基盤の確立 ①自主財源の確保 ②経費の節減と合理化 ③予算の重点的配分 III 機能的な組織機構の整備 ①組織機構の再編 ②定員の適正管理と人材育成の推進 ③職員の意識改革と資質の向上



しかし、この厳しい財政状況が続く中でも「4万人都市復活大作戦」をはじめとした施策の推進を図り、財政の健全性を確保しながら質の高い行政サービスを提供するため、市ではこれまで約4年間取り組んできた市行政改革推進計画(集中改革プラン)を改訂し、平成22年度から24年度までの3年間を計画期間とする集中改革プラン「改訂版」を新たに策定しました。

- 平成22年4月から見直しする主な行政サービス利用者負担
○水道・簡易水道料金、下水道・農業集落排水使用料
○施設使用料(中央公民館、各地区公民館・学校開放・スポーツセンター・古典芸能伝承の館・いきいきプラザ・ふれあいプラザ・あしたば白石・介護予防センターなど)
○証明手数料(住民票の写し・戸籍附票の写し・印鑑証明・固定資産・所得・償却資産証明など)
○市民バス利用料
○白石蔵王駅西口・東口駐車場使用料
○放課後児童クラブ利用料
○薬師の湯日帰り入浴利用助成
○高齢者外出支援サービス(タクシー券) 利用助成
○各種検診の本人負担
○障害者外出支援サービス(タクシー券・ガソリン券) 利用助成

※集中改革プラン改訂版の詳細内容は、市公式ホームページにも掲載しています。 Http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/gyoukaku/shuchu

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

病癒えて洗い上げたる大根の白さまばゆし秋 齋藤 典子
晴れの午後 齋藤 典子
これからは八十三歳の道標足もと見定めゆつくり向かわん 阿部みさ子
手を振っておはよう交わす人ら増ゆこの地に暮らし二十年経つ 佐藤 啓子
柿むきを終えて安らぐこの夕べ湯ふねに指を採みつつ浸る 大槻 きよ
老い二人何を語るか耳を寄せ日だまりの可笑みて手振りす 平間 久子
長月は白萩・すすき・友禅菊いつものひとが季を届け来 鈴木 茂子
如作り既に人手に委ねれば植えし菊など手折るもためらう 阿部はぎの
恒例の秋のたのしみ鎌先の湯宿の宴に老いの燥ぎぬ 高子うこん
粗末なれどわが育てたるスプレー菊供えて慰ぶ亡夫の命日 山田 濱
不忘山落ちゆく秋の陽を抱いて明日の好天刈る人に告ぐ 後藤今朝雄

評 一首目、初句の「病癒えて」が働いている。洗い終えた喜びが出てくる。二首目、感慨とともに、落ち着きもまた見られる歌。お元気で畑仕事の方も続けられましよう。三首目、若々しく行動的な作者なのである。上の句、具体的でいい。

俳壇

遠藤 秋尾 選

朝明けの炎立ちたる紅葉かな 服部 忠孝
館濠の鯉も開はれ冬に入る 岩松 隆志
坪庭や心輝く石路の花 岩澤 伍峯
豆煮ゆる厨に立ちて秋惜む 齋藤 典子

柳壇

四電 英夫 選

庭先に綿出浮かぶケアハウス 跡部 祐子
湯のけむり流るる溪の薄紅葉 高子うこん
落葉松はいくたび来てもいつも霧 跡部祐三郎
オカリナに合わせて歌ふ里の秋 佐藤 啓子
蕎麦の実の収穫急ぐ過疎の里 阿部はぎの
まい落ちる庭にそれぞれ小鳥来る 遠藤 忠臣
評 一句目、快晴に明けた、朝の紅葉の景である。燃えるような濃紅葉を「炎立ちたる」とした中七が絶妙。二句目、館濠の鯉は冬になると開われるのでしょうか。お城に館濠に、誇りを持つ城下人ならではの一句である。三句目、石路は、光沢のある深緑色の葉の上に、黄色の花を咲かせる。庭の明るさと花の美しさに、心まで輝くようだと歌う。

ノムさんのほやき楽しく聞けたのに 大庭 良子
拘りを持たぬ実家の大家族 阿部はぎの
人混みにふくらむ道路秋祭り 齋藤 典子
逃げないで苦労させるも愛のむち 遠藤 行夫
さわばたに武家の屋敷に鯉おとる 梶川善之朗
秋茄子を嫁と一緒に舌つづみ 阿部みさ子
アルバムに女優そっくり若き我 佐藤 啓子
名優に岡惚れをした若い頃 高子うこん
評 一句目、アメリカがくしゃみをすると日本は風邪をひくとか。経済大国の影響は計り知れない。二句目、「もったいない」と取っておくが、ごみを増やすものになるとは皮肉。三句目、多くの感動を残し球界を去った野村監督。特にボヤきは語録に残る名ゼリ。『イーグルス』いい夢だったありがとう。



国際コーナー

International Corner

カルチャーショック Part 3

先月号に引き続き、僕のカルチャーショックシリーズ Part 3をどうぞ!

●カルチャーショックのひとつ、異国の料理挑戦
移民国のオーストラリアではいろんな人が集まるので、料理はたくさんあります。日本料理も多く、最近ではラーメン専門店や吉野屋もできました。井と定食を作る店も増えています。でも、「日本料理と言えすし」というイメージがまだ残っているのも事実です。だから、まさか日本で馬が食べられるなんて思いもしなかったし、初めてカツオブシを見た時は焼きうどんの上を生き物のように動いて、何かの虫かと思ってしまいました!
その反面、日本のマヨネーズの素晴らしさを知り、オーストラリアで売っているマヨネーズは「もう相手にならない」と思いました。空揚げにかけたり、ブロッコリーと混ぜたり。日本のマヨネーズは(納豆以外!)本当に何でもおいしくするものですね。
●奇妙な外来語
日本に来る外国人の中には、日本語を勉強している、または日本語に興味のある方が多いと思います。日本語の勉

強では外来語も習います。けど、日本に来る前に習う外来語と、日本人が実際に日常生活で使っている外来語は、全く違うような気がします。学校では、バリアフリーやアルバイト、コーヒーなどそこそこ使われる言葉を習いました。でも、メタボやマニフェスト、クレーム、テンション、リーズナブルなどは、日本に来て初めて耳にしました。英語と若干意味や発音が違うこともあるし、次々と新しい日本語ができるので、自分が知っている日本語を見直さないとイケません。
●四季「雪」VS「台風」
冬のタイヤや灯油ストーブ、コタツ、ダウンジャケットなどは、比較的暖かいシドニー育ちの人には知らない世界です。山火事は毎年発生するし、何年も続けて干ばつ状態の中で暮らすこともあります。台風と雪は経験することが少ないです。姉妹都市のハーストビルでは雪は降ったことがなく、一番近いスキー場までバスで6時間以上かかります。梅雨もオーストラリアの北の方だけかな。
ひとまずカルチャーショックシリーズを終了します。ではまた来月の話題をお楽しみに!

まちの話題

～あの日、あの時～

Diary

大平祭りだヨ! 全員集合! 元気に大平祭り(収穫祭)を開催

11月20日、大平小学校(立田基生校長)で毎年恒例の「大平祭り」が開催されました。祭りは、6年生の「大平祭りだヨ! 全員集合!」という元気な掛け声でスタート。この祭りは、子どもたちが「総合学習」の授業で、地域の皆さんと一緒に育てた作物の収穫祭でもあります。3年生は大豆、4年生はシイタケ、5年生はお米を、およそ1年かけて育ててきました。
子どもたちは、スライドなどを使いながら「作物ができるまで」と題して学習の成果を発表。発表では、「自分たちが育てた大豆を使ったきなこもちが楽しみです」「地域の皆さんにいろいろとお手伝いいただきありがとうございます」など、収穫の喜びとお世話になった方への感謝の気持ちを話していました。

発表の後は、5・6年生が企画した出店で遊びながら、もちつきや焼きシイタケの試食を体験。大平地区の皆さん約60人も参加して、一緒に楽しい時間を過ごしました。



▲大人も子どもも一緒になってもちつきをしました